

## 『新装改訂版 現代数理統計学』（竹村彰通 著，学術図書出版社）

## 正誤表 第 1 版 第 6 刷 用

頁	場所	誤	正
33	下 4 行目	ベータ関数の積率母関数	ベータ <b>分布</b> の積率母関数
95	14 行目	頑健性については <b>推定論の章 (7 章)</b> 及びノンパラメトリック法の章	頑健性についてはノンパラメトリック法の章
97	8 行目	$N(\mu, 1)$ から 1 個の観測値を得て $\mu$ を推定する	$N(\theta, 1)$ から 1 個の観測値を得て $\theta$ を推定する
111	(5.11) 式	$R(\alpha, d_\alpha) =$	$R(\theta, d_\alpha) =$
114	下 4 行目	$= g\left(\frac{y}{\sqrt{n}}\right) \frac{1}{\sqrt{2\pi}} e^{-y^2/2 - \theta^2/2}$	$= g\left(\frac{y}{\sqrt{n}}\right) \frac{1}{\sqrt{2\pi}} e^{-y^2/2}$
114	下 3 行目	(6.11) 式は	(6.11) 式に $e^{\theta^2/2}$ をかけることにより
117	7 行目	開集合であり, $T = (T_1, \dots, T_k)$ の分散共分散行列は非特異であるとする. これらの条件のもとで, $T$ は完備である.	開集合であるとする. この条件のもとで, $T = (T_1, \dots, T_k)$ は完備である.
126	7 行目	$E_\theta \left[ \left( \frac{\partial \log f(x; \theta)}{\partial \theta} \right)^2 \right]$	$E_\theta \left[ \left( \frac{\partial \log f(X; \theta)}{\partial \theta} \right)^2 \right]$
167	1 行目	$A = \{x \mid T(X) \leq c\}$	$A = \{x \mid T(x) \leq c\}$
170	(8.18) 式	$\leq P_{\theta_0}(U \leq \alpha) =$	$\leq P(U \leq \alpha) =$
180	10 行目	$\alpha = E_{p_0}(\delta_{k,r})$	$\alpha = E_{p_0}[\delta_{k,r}]$
189	2 行目	$= (x - c'(\psi))p(x, \psi_0)$	$= (x - c'(\psi))p(x, \psi)$
206	(9.19) 式	$P_\theta(\theta \in S(X)) = 1 - \alpha$	$P_\theta(\theta \in S(X)) \geq 1 - \alpha$
259	8 行目	$\beta$ を自由に動かして $Q(\beta)$ を最小化すれば	$\beta$ を自由に <b>動かせば</b>
261	11 行目	$c^\top G_1 \hat{\eta} = c \hat{\mu}$	$c^\top G_1 \hat{\eta} = c^\top \hat{\mu}$
267	下 2 行目	自由に動くとき	自由に <b>動かせば</b>
273	(12.2) 式	$H_0 : \xi = \xi_0$	$H_0 : \xi \leq \xi_0$

278	下 15 行目	タイの与え方	タイがある場合の順位	の与え方
281	5 行目	正確な有意水準 $\alpha$	検定のサイズ $\alpha$	
312	下 10 行目	1702-61	1701 または 02-61	
312	下 6 行目	1920 年代	1930 年代	
316	7 行目, 8 行目	$E_\pi(p)$	$E_\pi[p]$	
324	2 行目	$f(x/\tau)/\tau$	$f( x /\tau)/\tau$	
330	下 1 行目	最も不利な分布とはベイズリ スクを	最も不利な分布とは $\delta_\pi$ を用い たときのベイズリスクを	

---